

ユニバーサル・ヘルスカバレッジと国際保健・公衆衛生のキャリアについて考える

第2回 JMA-JDN セミナー with IFMSA-Japan

JMA-JDN セミナー企画担当 淀川キリスト教病院 産婦人科 後期研修医 柴田綾子
セミナー日時：平成 27 年 2 月 28 日 東京女子医科大学

「マヤという 1 人の女の子が笑うには、薬の援助や、診療所の建設や、医師やヘルスワーカーを派遣するだけでは不十分。それらを全て含んだ”医療システム”が確立されていなければ社会は十分に機能できない。世界中に包括的な医療システムを創ろう、その地域にあった医療システムの確立を援助しよう、というのがユニバーサル・ヘルスカバレッジ(UHC)です」と、講師の渡部先生は世界銀行のビデオを見せながら説明されました。

第2回 JMA-JDN セミナーは IFMSA-Japan(国際医学生連盟 日本)と共同開催の形で、外務省国際保健政策室から渡部明人先生をお招きし、医師だけでなく、医学生、看護師、大学教員、国際関連学科等、30 名以上に参加して頂きました。

UHC は「医療サービス(予防・健康増進、治療、リハビリ、緩和ケア)を必要とする全ての人が、不当な経済的困難に陥ることなく、医療サービスを受けられる状態」と定義されています(WHO,2010)。UHC は各国が文化と歴史と既存の社会システムを基盤に創りあげていくものであり、医療システムの形に答えはありません。

セミナーの前半では WHO が作成している country report を使用し、バングラデシュ、インドネシア、タイ各国の医療システムと医療問題に対し、保健政策の立案、財源についてグループワークを行いました。発表では各国の人口、地理的要因、経済発展度を勘案しながら、ディスカッションが行われました。

UHC を知り、日本の国民皆保険は UHC の体系の 1 つであること、強固な医療保険システムのお陰で医療サービスの標準化と経済発展が支えられ、国民の生活水準がここまで高められたことを学びました。UHC の 1 つとしての日本の医療保険システムは、世界的にも優れた部分が沢山あり、世界に発信できると感じました。

セミナーの後半では「国際保健・公衆衛生のキャリア戦略」として、渡部先生の学生時代、研修医時代、バヌアツ共和国での活動、英国大学院への留学、現在の外務省でのお仕事の内容を混ぜながら、国際保健・公衆衛生における医師のキャリアパスをどう創っていくかをお話して頂きました。臨床現場では、国際保健や公衆衛生の話に触れる機会が少なく、参加者の皆さんは熱心にメモをとり、セミナー終了後も講師の先生に質問をされていました。

第3回 JMA-JDN セミナーは、第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(平成 27 年 6 月 13 日(土))にて「地域医療連携ワークショップ ～ケースで学ぶ在宅医療との連携～」を開催予定です。これからも JDN セミナーへのご助言・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。